

## 『どんなときでも自分が主人公』



今日で6月が終わります。カレンダーによっては早いもので折り返し地点となります。毎週末、応援したほとんどの運動部の公式試合が終了し、都大会出場する剣道部、これから大会を迎える水泳部が残るのみとなります。3年生がいない野球部と1年生の移動教室で陸上部の応援ができませんでしたが、来年度は優先して応援したいと思います。



さて、応援して感じた2点をお知らせしたいと思います。まずは、試合に出ている選手たちです。選手たちは様々な場面で考えたり判断したりして対戦し、振り返り（反省）をしたでしょう。また、出場しないで応援している部員はどんな気持ちで、どんな見方をしたでしょうか。「次の試合には自分が・・・」と思えば、見る視点も戦略的になり、その後の部活動の練習も違ってくるでしょう。どの立場でも、経験は必ず活かされます。頑張ってください。

そして団体戦で応援する様子です。あと1勝、あと何点という場面に、部員一丸となれる熱い応援ができる部は、ただ声援をおくるだけでなく人ごとを自分ごととして捉えている瞬間を過ごしているのではないかと思います。これは部活動内ではなく、日常生活にも影響します。



クラスで、学年で、学校外での出来事に自分ごととして見る、捉えると、人権的な視点だったり自分を振り返る気持ちだったり、今まで躊躇していたことを思い切ってやってみたりする一歩につながりやすいと思います。大げさだと思うかも知れませんが、応援されたらもてる力以上を出せるかも知れませんが、負けても全員と一緒に悔しがる、労ってくれる仲間がいるのは大きな居場所となるはずです。



当たり前ですが、どんな時でも自分の人生は自分が主人公です。時に自分を見失いそうになる出来事や、自分と向き合いたくない時間もあるでしょう。人をうらやましく思ったり、落ち込んだりする日があっても、自分を良くも悪くもするのは自分です。たくさんの経験から自分を創り上げてほしいと思います。成功や失敗、挫折、それらは大人になった将来に生かせるからです。

2点目は昨年度までPTAからいただいた高松タオルです。このタオルを相棒に肩にかけていくと、遠くからでも分かるそうで「校長先生」と部員や保護者からも声をかけてもらいました。悔るなかれ高松タオル、ありがとう高松タオルでした。

試合を終えた皆さん、お疲れ様でした。そして、これから試合の部員のみなさん、力を出し切ってください。

文化系の皆さんの活躍も、今後、紹介していきます。部員の皆さん、待っていてくださいね。

